

# ほとけの 混和会だより

平成二十三年一月  
大 愚 庵  
仏の混和会

第 81 号

# 吉祥



檀信徒各位様に、  
於かれましては、  
幸多き新春を  
迎えられた事と  
お喜び申し上げます。  
又皆様の上げます。  
ご健勝とご多幸を  
心よりお祈り  
申し上げます。

昨年は、皆様と共に様々な仏道を精進させて頂き、とても有意義な年と成りました。  
お陰様で平成二十三年の正月も無事に迎える事が出来ました。  
誠に有り難い事と存じます。

ところで、この「正月」とは、果たして何なのでしょう？ 新春にあたり、今改めて、正月のあり方に付いて考えて見たいと思います。

現代の日本人に取って、それは、カレンダーが新しく成るだけの意味と成ってしまいました。

しかし、伝燈文化において「正月」というのは、「正月様が各自の家に戻って来られる日」なのです。

それで、それぞれの家で正月様をお迎えするのが正月の行事です。

それでは「正月様」とは何なのでしょう？ これは「若年さん」とか「年徳さん」「歳徳神」「年神様」と呼ばれたシガミ(年神)のことです。そしてその実体は各自のご先祖様の集合霊です。

ただし、ご先祖の霊といっても、正月様は、浄化された霊魂です。その点では、まだ浄化されていない霊魂もあります。

昔の日本人は、浄化された靈魂を神(カミ)と言い、浄化されていない靈魂を仏(ボトケ)と呼んで区別していました。

浄化されたご先祖は神として正月

は無く、己の生涯をかけても、とても到達出来る者では無いと言うことでした。

しかし、小さな仏心でも得られると、大変大きな安心が得られると言う事も見えて参りました。

その、仏心を抱いた人々が集う聖域が、お浄土であり、お浄土は、死後だけに存在するのではなく、私達の生きる、この社会に、お浄土を築く事が最も尊い事であると言う事も解って参りました。

私達の、父母、祖父母、又ご先祖様の抱いた仏心を受け継ぎ、大きく成長させて、この世も来世も、共に極楽浄土と成るよう、今後も精進して参りたいと存じます。

さて、本年度の課題と致しましては、「共に生きる」と定め、この世がお浄土と成るよう、微力ながら努めて参りたいと存じます。

昨年も、秋葉原の無差別傷害事件と同じように、取手に於いて「自分の人生を終わりにしたかった」などと痛ましい傷害事件が起きてしまいました。

これは、昨今の孤独社会が招いた悲劇かと思えます。

本日の朝日新聞に「孤族の国」と題して、今の日本の現実の姿が連載で掲載されています。

それは、昔の大家族が崩壊し核家族と成り、更に家族にもなりきれない、孤族と言う人々の

集まるのだから、分家の人間は本家に食べ物を持ち寄ります。それが「お歳暮」です。

しかし現代のお歳暮は、本来の意味からかけ離れてしまいました。では、お歳暮は、何なんだと思えば、これは「置来」ナオライだと思っ

て下さい。  
神事においては、神事が終わったあと、神様に供えた神酒や神饌神に供える飲食(食物)を、おろしてみなで頂きます。それが直来ですが、ご先祖様の霊である正月様を迎えて、十二月三十一日の夜に神酒や神饌をお供えします。

それを、一月一日の朝におろして、それを、一月一日の朝におろして、ごた煮にして食べます。そのごた煮が雑煮です。ですから、雑煮を食べるには、雑煮箸が使われます。これは柳箸などを使った日本箸で、両端が細く丸くなっています。あれが人間が使うのです。つまり「神人共食」このところに正月行事の基本の意味があります。一族郎党が全員そろって、ご先祖様(正月様)と一緒に食事をするので、

に帰って来られ、浄化されていないご先祖は、お盆に帰って来られます。よって正月というのは、各自のご先祖様の霊であるトシガミを迎える行事なのです。  
神を迎えるには、当然、憑代が必要で、憑代と言うのは神霊を招き寄せるもので、正月さまを迎えるための憑代が門松です。



ご先祖様の霊を迎えるのだから、家が祭場に成ります。

そして、家を祭場にする準備を始めるのが、十二月八日(京都近辺では十二月十三日)の「御事始」です。これは「掃除き」ともよばれますが、たんなる大掃除では無く、家を祭場にする準備です。

また祭主は、家長であって、家長は神事を営むのだから、この御事始めの日から精進潔斎をします。あまり悪いことをしないようにするのです。

なお、「家」といっても、現代の核家族ではありません、昔の大家族制のほうがいいでしょう。正月の行事は、一族郎党が本家に集まって、そこでご先祖さまの霊(正月様)と一緒に食事をすることに意義があります。

正月様(先祖の神)と家族(人間)と一緒に食事をするわけですから、

悲慘な出来事でした。「五五歳、軽自動車で最期」とか「三九歳で餓死」などと、何とも痛ましい記事ばかりなのです。

とても、他人事とは思えませんが、明日は我が身と成らぬよう「共に生きる」環境の構築を模索して参りたいと存じます。

人と人が、様々ななかかわり合いを持ちながら生きる、と言う事は、大変煩わしい事であり、

そして、お互いに干渉し合わない生き方を築き上げた結果、現在の孤族社会における悲慘な事件を招いたように思われます。

ほんの数十年前、私達の生活は今のように豊かではありませんでした。

しかし、生活は苦しいけど、共にいたわり合う、地域や家族と言うものが存在しておりました。

多少煩わしいかも知れませんが、今一度、お互いに干渉し合い、つながり合う社会の構築を農作業や、諸行事を持って築いて参りたいと存じます。

と言えども、全て手探り状態です。

私としては農産物の直売所のよい物が出来れば、良いな、などと思

うのですが、皆様のお智慧やご指導を仰ぎながら、せめてご縁の元に生きる、私達だけでも、共に生きる安心が得られるよう努めて参りたいと存じます。

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌

合掌



## 『節分会』

二月三日(木曜)  
午後三時半より

して、  
念致し上げます。  
祈を申  
をのち  
福ま待  
招豆皆  
お

大 愚 庵

電話 ※※※※※※※※